

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

別添様式2

公表日：2023年 2月 1日

事業所名：さとうま

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	直径約20mの丸馬場、30m×20mの広い角馬場で利用者が存分に体を動かせる広さが確保されている。		
	2 職員の適切な配置	確保されている。	職員さんの専門資格などは知らされていない。	職員の配置が分かる資料を作って情報公開します。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	馬のくらしを支える基本プログラムが目視で分かる、誰でも参加できる環境が揃っている。牧場なので砂地など多少の凹凸はあるが、感覚を刺激する環境としての設備だと言える。	トイレが近くないのでトイレを我慢して帰りに早く帰って欲しいと言われがち、生理が始まったら大変かなと思うのでトイレは近いといいなと思います。	トイレが遠いことに対しては、利用者に不便な思いをさせて申し訳なく思っています。近くにトイレを作るように神戸市に働きかけています。できるだけ早くトイレの設置を実現したいです。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	厩舎は綺麗に掃除して利用者が使いやすい状態に保たれている。疲れたら眠れる、揺られる、ゆったり過ごせる空間が確保されている。		
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	当日のプログラムやの準備や馬の運動の手配、利用者に寄り添ったプログラムを目標に向けて進めている。ミーティングで、実施した内容と成長の過程を毎回振り返って議論している。		
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	第三者による外部評価を実施していない。		外部から誘評価を積極的に取り入れて行きたい。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	公的な研修会や福祉法人などが実施している研修会に参加を推奨している。外部の専門家を招いて勉強会も実施している。		
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	保護者と子どものニーズを明確にして、成長を見守りながら、中間評価をおこなって随時、改善をプログラムに反映している。		保護者と適切な情報交換し年齢や成長の課題を評価・分析し日々のプログラムを行なって行きたい。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	個別支援計画に基づき、成長を促すプログラムを実施するとともに、毎回の結果を利用者やその保護者と日報を利用して情報を共有して改善を行っている。		保護者と情報交換を行い子どもたちの成長のサインを見逃さないよう勤めていく。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	子どものからだや心の状態、年齢に応じて成長の段階を見極めて、個別支援と集団支援を組み合わせながら実施している。		子どもの成長に合わせたより具体的なプログラムを記載して行きたい。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供 （続き）	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	馬との暮らしを通じて、一人ひとりに応じた支援プログラムを実施している。		
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	スタッフミーティングで話し合って、プログラムの立案改善をおこなっている。		
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	保護者とは、メールやLINEによる連絡を取っており、緊急時には電話やメール・LINEで連絡を取る等、対応を行なっている。	馬の活動はルーティンが大切、他の活動は金曜にクッキングがある。午後のボードゲームは楽しそう。	
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	プログラムは馬の暮らしを支えるとともに相互に成長するように組み立てられています。馬と人の関係は、馬は生き物なので、常に変化しています。		
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	セラピーの内容、その日のプログラムなど、利用者にとどのように寄り添い環境提供するのか朝に情報交換している。		
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	セラピーの内容、その日のプログラムなど、利用者にとどのように寄り添い環境提供したか、振り返りのミーティングを行っている。		
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	日々の支援は詳細なサービス提供記録を作成して、支援の振り返りや改善に生かしている。		
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	モニタリング(中間評価)は6ヶ月に1回実施。それを個別支援計画に反映している。		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へ参画	児童発達支援管理責任者が必要なミーティングに参加している。必要に応じてその他の担当者も同行。		
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援する機会は少ないが、医療情報については、連携した支援の体制を準備している。		
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援する機会は少ないが、医療情報については、連携した支援の体制を準備している。		
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	学校と月1回以上直接情報を共有している。		
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	放課後等デイサービス後の移行支援について、高校を卒業する年齢に達している利用者が希望すれば、馬との関係が続けられるような関連機関と連携して取り組みます。		
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	機会あるごとに積極的に参加するように努めている。		
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	イベントを通して、利用者以外の子どもたちとも一緒に活動できる機会を提供している。		今後、交流機会の場を作って行きたい。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	事業所の行事へ地域住民の方を招待している。勉強会の講師を地域住民の方にしてもらうなど、地域と連携して支援を行なっている。		施設の特性を生かした交流を進めて行きたい。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	重要事項の説明、契約書等で説明を行っている。	定期的にお知らせが届く。	
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	6ヶ月のモニタリングを行なっています。さらに毎回の成長をサービス記録を通じて親御さんと共有し、必要に応じて相談に応じている。		
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	保護者は子どもの環境と一緒に作っていくパートナーと捉えていて、身体へのニーズに関する環境設定や気づきを共有するとともに、馬との暮らし型セラピーを学べる機会も提供している。		
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	毎回の子どもの成長をサービス記録を通じて親御さんと共有し、家や学校での子どもの様子も共有しながら、個別の相談に応じている。	発達課題などは時々立ち話で聞くことがある。	引き続きコミュニケーションを図るよう努める。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	面談時間を取り対応することになっている。		
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	イベントを通じて、保護者の方の交流を促進しているが、保護者会など、保護者間の連携のための仕組みはまだ十分とはいえこれから取り組んでいきたい。		
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	保護者等から苦情を聞き取り、できるだけ速やかに対処する。		
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	子どもの特性や保護者に配慮し、意思の疎通や情報伝達に勤めている。	とても特徴的かつユニークな場所なので入りたての時は多めに情報は必要だと思う。	入りたての親御さんには、身近な期間で情報伝達が必要だと思います。改善します。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	必要な情報をホームページ、SNSを使って配信。		
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	原則外部への資料提供は、本人同意なき場合は行わない。また、同意が得られた場合でも、研修資料等第三者を対象にした場合、伏せ字等で公開。	十分注意している。他の利用者さんとのことはスタッフからは聞かないので。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	災害やインフルエンザ等、必要に応じて作成している。		
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	年一回、消防署等防犯防災期間の指導の下、訓練を実施。		
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	研修会等に積極的に職員の参加を行なっている。		
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	身体拘束は行なっていない。身体の接触に際しては本人への同意と保護者への同意が必須です。身体の接触、安全確保等については職員一同で研修し十分な訓練を行なっている。		
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	食事の提供を行なっていないが、保護者から情報把握を行なっている。		
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	毎回ヒヤリハットの報告を行い、打ち合わせ等で話し合いを行なっている。		